第２次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会 第３回会議概要

１　会議名　　第２次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会第３回会議
２　日　時　　平成 29 年７月 12 日（水）　午前９時 32 分から 11 時 52 分まで
３　会　場　　豊科交流学習センター「きぼう」多目的交流ホール
４　出席者　　宮下健司委員（委員長）、平田米子委員（副委員長）、小林栄子委員、安井邦夫委員、百瀬佳子委員、上兼裕委員、亀井智泉委員、平倉勝美委員、降旗幸子委員、古川節雄委員、三澤禮司委員、堀金隆雄委員、舟橋嘉奈子委員
《事務局出席》　山田教育部長、生涯学習課蓮井課長
熊井危機管理担当係長、山口人権男女共生係長、山﨑情報政策係長、山田まちづくり推進係長、藤森環境政策係長、等々力福祉政策担当係長、藤澤学校教育係長、米倉スポーツ推進担当係長、三澤文化振興係長、財津博物館係長、細田図書館交流担当係長、生涯学習課 堀金、古畑
株式会社 KRC
５　公開・非公開の別　　公開
６　傍聴人　０人　　記者　０人
７　会議概要作成年月日　　平成 29 年７月 25 日

会　議　事　項　等

○会議の概要
１　開　　会　　蓮井生涯学習課長
２　あいさつ　　宮下委員長、山田教育部長
３　会議事項
（１）第３回策定委員会の位置づけ
（２）第２回策定委員会の振り返り
（３）第２次生涯学習推進計画の基本的な考え方と枠組み
（４）スローガンの検討
（５）骨子案の検討
・基本目標、施策の柱・施策の内容の検討
・具体的な取り組みの検討
（６）その他
４　閉　　会　　平田副委員長

○会議事項
（１）第３回策定委員会の位置づけ
（２）第２回策定委員会の振り返り　（事務局より説明）

【委員】　24 歳以下、０歳から 24 歳までという意味合いからすると高校生くらいの年代の学習について抜けているのではと思う。その辺を考えていければいいと思う。

【事務局】　前回の会議で検討の際、学生の年代に関する意見が少なかったということなので、次の４回目、５回目の会議ではこのあたりもしっかり検討していきたい。

（３）第２次生涯学習推進計画の基本的な考え方と枠組み
（４）スローガンの検討　（事務局より説明）

【委員長】　事前に資料で検討いただいて意見のメモ等も記入されているかと思うので、ライフステージごとのスローガンについて、意見や修正案をお出しいただきたい。

最初に24歳以下『夢・未来へ 新しい自分や仲間と学びで出会おう』について。

【委員】　いいスローガンだと思う。24歳以下は生涯の友だちを見つけられる世代。殻を抜け出す意味もある「新しい自分」の表現もいい。子どもたちにとっても、学校の仲間だけではなく段々と外のことを見つけられるきっかけになるのではないかと感じた。

【委員長】　０歳から18歳までの子どもにとって、地球上でたった１か所「ふるさと」といえる場所がこの安曇野市になる。その地球上でたった１か所の安曇野市でどういう体験をしていくかということが将来の方向性を決めていく。そういう意味でここに夢、未来、新しい自分という言葉が込められていると思う。

【委員】　各世代のキーワードが、一番若い世代に「出会い」、次の世代に「みんなで学ぶ」、次の世代には「自分のために」、最後の世代に「仲間とともに」とあるなかで、仲間と出会う最初の世代に「出会い」という言葉を持ってきたことで他の世代のスローガンにもつながる非常にいいキーワードが当てはめられている。他世代との整合性やつながり等も考えて、とてもいいスローガンだと思う。

【委員長】　次に25～44歳、『家族も地域も みんなで楽しく学びあおう』について。

【委員】　「家族」という言葉が前面に出ているだけで随分温かみを感じられる。子育て中の方も特に目を引くスローガンだと思う。

【委員】　小学生の子どもの親御さん世代がここに該当するが、家族ができ、子どもの成長に伴い地域との結びつきが一番ある頃。役員をやることで地域を知ることもある。子どもを通して地域とつながる。「地域」というフレーズがいい。他の世代にはないキーワードだが、まさに家族と地域とつながる世代。そこにみんなで楽しく、と続き、いいなぁと感じる。シンプルながらも的を得ている。

【委員】　「みんなで楽しく」の部分にからめ、「遊び」も入れたらより広がるのではないか。学びとともに遊びも。

【委員長】　合併により地域も広くなったが、それぞれの生活圏がある。家族を考えるとき安曇野市には多くの道祖神がある。道祖神というのは、夫婦が和合して新しい生命が誕生する、この願いが安曇野市のベースにあるのではないかと思う。そして子どもが生まれるということは家族が繁栄し、その家族を包括する地域が繁栄していくという、人間の原点的なものが信仰のなかにある。地域のなかで道祖神を見ることによって家族や地域を振り返る、そういうものが安曇野の場合には路傍に建っているということがひとつの大きな特色。こういうものがスローガンに組み込まれてきた。
　続いて、45～64歳『第２の人生 自分のために学習しよう』というスローガンについて意見をお願いしたい。

【委員】　「第２の人生」とすると区切ってしまう感じがするので「第２の人生へ」としたほうが良いのでは。また、この年代になると自分の住んでいるところへの地域貢献、ボランティア活動が入ってくる。地域の役員のなり手についても65歳以上に頼るだけではなくこの若い世代も行動するということを入れてもいいかと思う。

【委員】　この世代は、その先に向かってまず第一歩、これから自分がどうしていくかと考える時期でもある。「自分のために学習しよう」、だけではちょっとさみしいので、私から私たちへ広げていこう、というような文言があれば少し温かみがあるかなと思う。

【委員】　第２の人生、という部分にちょっとひっかかる。この世代は仕事をしているなかでは一番脂が乗っている、仕事に充実している時期。いわゆる管理職の方が多く、忙しくて充実していて責任感もあって大変な時期。仕事をしている人からすると第２の人生、と言われてピンとくる人とそうでない人がいる。性別や雇用形態でも違う。この世代はもう１回自分を見つめ直す時期だという捉え方もあるので、それで何か良い言い方があれば。

【委員】　「第２の人生」の捉え方は人によって違う。この場合は定年として捉えているが、卒業、結婚がそれだという人もいる。再任用制、定年延長等もあるなか、この時期を第２の人生とするのは早いか。前回グループ討議のなかでも、この世代は忙しいのでリフレッシュして自分を取り戻そう、という言葉が出た。自分のために、ということもあるがやはり社会のために、地域のために、学校のために学習していくということで、自分のためだけではないということにした方がよい。

【委員】　　個人個人みんな違うので、この世代で「第２の人生 自分のために…」と言ってしまうと範囲が狭くなってしまう。女性の第２の人生はここではないと思うし、不自然な感じがする。

【委員】　　他の世代は「みんなと」「仲間と」と、ネットワークの意識があるが、この世代だけ「自分のため」というのに皆さんもひっかかっているのではないか。ここだけやはり違和感があった。定年後に向かってホップステップ、という意図はわかるが、「自分のため」をクローズアップしてしまっている。ではどういう言葉が良いかと考えると、キーワードのなかにある「貢献」という言葉は非常に良い。ここは、力がある年齢層を生涯学習と結ぶ、一番難しい世代だと思う。

【委員】　　キーワードの中に前向きな、積極的な言葉が少ないところに苦労されているのでは。しかし見ると前向きな言葉もいくつかあるのでそれらから選んではどうか。また、全体を通じたスローガンについて、安曇野市の計画を作るので、先ほどの道祖神の話のように安曇野らしさをスローガンで示すのもいい。もともとの総合計画にも「北アルプスに育まれ 共に響きあう 田園産業都市 安曇野」という将来都市像が掲げられている中での生涯学習計画。安曇野らしさが表れると、大事にしたいスローガン、見てワクワクするスローガンになると思う。

【委員長】　　非常に大事な視点。私たちがいま話をしているのは「安曇野市」の生涯学習推進計画。安曇野市のイメージが伝わってくるような言葉が並んでくるのは大事なこと。こういう計画を作るとき全国一律どこでも通用するものではなく、地球上でたった１か所ふるさとと言える安曇野の、人を育てる生涯学習のスローガンになる、そこが大事だと思う。
　「第２の人生」「自分のために」に代わる言葉を、今の議論を踏まえて出していただきたい。

【委員】　　第２の人生とはよく使われる言葉ではあるが、人生というのは１回しかない。この言葉は一人ひとりがその区切りの時に使えばいい。この世代は仕事も家庭もそれなりの経験をして、ある程度自分の人生をまとめていく時期だと思われる。第２の人生の代わりに「充実の人生」はどうか。

【委員長】　　違う言葉に置き換えていくと広がりが出てくる。「第２の人生」から「充実の人生」にという今の意見。こうすると限定しない、むしろ中身を表せる言葉になると思う。

【委員】　　今の「充実」を安曇野らしく果物から、「実りある人生」にしてみては。

【委員】　　（「自分のために学習しよう」の部分について）職場で頑張る世代ということで、生涯学習を通して新しい自分に出会おう、という言葉にかえたほうがいい。また仕事等、その場所でストレスを感じたり辛いときなどはリフレッシュして環境をかえることが大事なので、リフレッシュという言葉も入れた方がいいかと思う。

【委員】　　知識、技能を活用する世代でもある。「学習しよう」という言葉では少しかたいので、「深く学ぼう」「深い学びにしよう」という言葉はどうか。

【委員長】　　学習よりもっと具体的に、深い学びに。また人生はこの辺りにくると「学び直し」できる時期でもある。表面的に見ていたものが違う面で見えてくるという点で学び直しという言葉も付け加え、今の議論を踏まえて次回に向けて事務局で言葉を選んでいきたい。
　では、最後の 65 歳以上の『心豊かに健康に 仲間と共に生きがいをみつけよう』について。

【委員】　　「仲間」について。子どもも手を離れ夫婦２人という方が多い。また夫婦で共に同じことを学んでいくという人も非常に多い。仲間という部分に夫婦や家族というようなものを含むような言い方にしてはどうか。「心豊かに健康に」はとてもいい。

【委員】　　65 歳以上になるとこの地に定着する方も多いかと思う。あえて生涯学習という言葉を入れず、先ほどの安曇野らしいスローガンという意味からも「仲間と共に安曇野で生きよう」「最後の生涯を安曇野で暮らそう」でもいいか。

【委員長】　　65 歳以上になると確かに、ここに根を張ってここで人生を終える、そういう世代。安曇野をどう捉えて、どう活動して、若い人たちにバトンタッチしていくかという世代ではないかと思う。

【委員】　　まさにバトンタッチをしていただける世代。次の世代に伝える、次の世代へつながるとか、安曇野のいいものを次の世代へ伝えるための学びをしてもらえる世代ならではの言葉を入れていただきたい。「次の世代に伝える学び」というような表現を入れるのはどうか。

【委員長】　今、次の世代へのバトンタッチができない。特に65歳くらいの人たちとその下の世代には大きなギャップがある。65歳以上の人は高度経済成長以前の安曇野の生活を知っている。ところが65歳以下となると、生まれたとき父と母の真ん中にテレビがある世代。東京オリンピックを境にした高度経済成長以前と以後では大きく生活が変わっていった。そのことを知っているのがおそらく65歳以上の世代であり、その人たちのいろいろな経験を伝えてほしい。頭の中にいろいろな経験がつまっているが、それを何もしないとみんな墓場に持っていってしまう。そういう古い世代の人たちのやってきたことなどを記録化するということもこれからの生涯学習では必要になるのではと思っている。

【委員】　生涯学習というのだから、死ぬまで勉強をする、生涯に渡り学習をするという意味を込めて、「磨きをかけよう」という言葉をどこかに入れていければいいと思う。さらに磨きをかけよう、とか、最後までしっかり勉強をしようというような意味で。

【委員】　確かに生きがいとはいい言葉であるが、生きがいを個人個人に当てはめると非常に難しいと思う。人というのは次の世代にものを伝えていくということでは人生の先生になる。「先生」という言葉をここに入れるのは難しいかもしれないが、そのような意味合いのいい言葉を。次の代に伝えていくことが社会教育、人生、個人の一番大事なことではないかと思う。いい言葉が出なくていけないが、「健康・生きがい」だけで終わるのではなく、生きがいを光らせたい。輝きを持たせたい。人生の先生という意味のいい言葉があれば。

【委員】　今は核家族化が進んでいて、祖父母、孫になかなか会えない人が多い。そういう人たちがこのスローガンを見て、祖父母のように遊びを教えてあげたいと思えるような、心くすぐる言葉が入ればいいと思う。

【委員】　皆さんのご意見に頷きながらまとめてみた。「豊かな自然のなか 心も体も健康で 仲間と共に分かち合い　次の世代に伝えるリーダー」。

【委員】　同様にまとめてみたが、「生きる 学ぶ 育む つなぐ　安曇野びとへ」。

【委員長】　安曇野びと、といういい言葉が出てきた。共通に使えるのでは。

（５）骨子案の検討　　（事務局より説明）

【委員長】　５つの分野に分けて意見等をいただく。最初に、『4-1-1 生涯学習に取り組みやすい環境づくりに関するご意見』というところでお願いしたい。

【委員】　総合窓口の運営というところで、どうしても本庁集約になってしまうと思うが、小地域でも情報を得られるようなサテライト的な窓口を設けてほしい。

【委員】　生涯学習情報冊子の発行について、消費者にとっては最新情報が必要とされ、かなりの頻度で発行されることになる。事務量としてかなり大変になるのではないか。この推進計画に各生涯学習施設の概要や年間行事の予定を載せてはどうか。

【委員】　どんな分野でも相談はとても大切。総合窓口は、学びについてのいろいろな相談に応じられる場であってほしい。相談対応がワンストップでできていれば、冊子やＳＮＳなどは２次的、補助的なものになり得る。特にＳＮＳに関しては炎上や個人情報保護等、非常に難しい面を持つツール。まずは総合窓口がコーディネーターや相談対応の窓口として基幹的に機能すること。そこがワンストップで市民の生涯学習を支えるというスタンスが基本的にあれば、冊子やＳＮＳは補完的な形で運営ができるのではないかと思うので、そのような環境づくりを考えていただきたい。

【委員長】　大事なご指摘。生涯学習は多岐に渡るため、どこへ問い合わせたら良いのか、という一番の原点が総合窓口。相談、レファレンスをどういう形で整えていくのかということは、情報発信のもととして非常に大事な部分かと思う。

【委員】　ＳＮＳについて、シニア大学の参加者同士がＳＮＳのコミュニティ上で日頃の情報の交換を行っている。今は、拠り所として公民館などにふと集まって会議ということがなかなかしにくい。その代わりをＳＮＳ上でのコミュニケーションでつながることができている。一方で先ほどのお話のような危険性もあるが、リスクマネジメントしながらうまく使えば、生涯学習で仲間がつながるということで有効的。

【委員長】　　続いて『4-1-2　生涯学習の機会の提供 に関するご意見』について。

【委員】　　人権講座について。どこでもそうだと思うが、人権に関する講座等は出席率が低い。かたく考えてしまいがちだが、大事なことだと思うので項目として出して、市民への浸透を図りたい。

【委員】　　人権にしても家庭教育にしても、講座型で勉強させてもらうという形の学習では浸透しない。教育でも人権でも、みんなが学ばなければならないというのは、裏を返せばみんなが当事者であるということ。一方的に講師の話を聞くだけが学習ではない。当事者としての学び合いとして、共に語り合い共に学び合うという「しゃべり場」的な学びの提供があってもいい。このような場の提供について施策のなかに取り入れてもらえれば。

【委員長】　　人権だけではなく、共に学び合うというのは生涯学習の原点、基本。そういう視点が入るだけで幅が広がる。

【委員】　　スポーツ教室の対象に65歳以上が含まれない理由は。また、アンケートのニーズの中には外国語の講座ということがあったにも関わらず項目として載っていない。多文化共生ということで入っていれば別だが、グローバル化ということもあり、東京五輪のホストタウンに、ということもあるのでそういったことにも力を入れていただきたい。

【事務局】　　スポーツ教室の65歳以上については入っていないので確認し入れていきたい。多文化共生については日本語教室等を行っているがわかりにくい記載になっているので追加したい。

【委員】　　市民に外国語を教える講座があってもいい。広がりが出て、観光やいろいろな面でも役立ってくると思う。またスポーツについて、審判等の資格取得やインストラクター養成などを支援する講座があってもいい。人権の講座については、一般向けだけではなく中高生向けに人権講座的なことで指導をしていかなくてはいけないと思う。学校で行っている講座よりもっと踏み込んだ内容、具体的な内容を市主催で行っていければいい。学校では教えない、家庭では教えにくい、という問題を取り上げて指導していければいいと思う。

【委員長】　　人権教育のイメージを作ることは学校教育でできてしまう。そういう中で学校教育と連携しながら安曇野市としての人権教育を作っていくのかというのは大きな課題だと思う。

【委員】　　スポーツ教室の項目に発展して。自ら運動をすることも大事だが、もう少し視野を広げて、スポーツの力を感じる機会を。県内にもプロスポーツチームが増え、安曇野市もサッカーチームのホームタウンとなっている。観戦し、応援し、ボランティアで運営に関わることもできる。これも生涯学習の一つになるのではないか。スポーツの力というものを、運動で体験するだけではなく、感じること、触れることとして一つ項目になれば。

【委員】　　人権学習として安曇野市では地区公民館等でも学習会が開催され、人権という言葉も広くどこでも通用するようになっているが、昔からの固定概念が先行しうまくいかないこともある。生活していく上では親子間、兄弟間でも人権の問題が出てくることがある。多文化共生も人権問題に関わる。ネーミングからもう少し研究し、全ての問題につながっていくように考えたほうが良いのではないか。また、年代に応じた学習機会というところについて。18歳から選挙に参加できるようになったが、学校教育だけではそういうところの学習ができていないように見える。社会教育、生涯学習の中で選挙に関する学習をしていくことも考えたい。選挙に行く人を増やすことが難しい日本になってしまう。自分の人生も生活も選ぶ人で変わってしまう、ということは、学校でやることではなく世の中が教えること。介護保険、健康保険の制度についても正しい知識を知らない人が多いので、出前講座等で生活に近づいた学習の提供することが大事。

【委員長】　　「知らば見えじ」という言葉があるが、知らないと物事が見えてこない。知らば見えじを学習の中にどうやって反映させていくか、ということも生涯学習の大きな部分。

【委員】　　あづみ野テレビでの市議会中継を見るが、とても参考になるし、わざわざ議場に行かなくても自宅で体験できる。先ほどから話に出ている人権に関する講座についてもそうだが、ちょっと会場へ足を向けるのには抵抗があるが大変重要なこと、というものについては、一方的ではあるがテレビを通じた学習の提供の仕方について、可能なら検討してもらえれば、と思う。

【委員長】　　続いて『4-1-3　利用満足度の高い施設運営 に関するご意見』について。

【委員】　　新総合体育館建設に関連して、その中身について。先ほどスポーツ教室の項目で、指導者育成の話が出たが、まさにそれが体育館建設で実現できるのであれば、外を整えるだけではなく、それを支える人材の育成をぜひ生涯学習の視野に入れていただきたい。若い世代も安曇野市で活躍する場所があれば帰ってくると思うので、若い世代の定住、定着のためにも、生涯学習指導の人材として育成するということも大事な施策の一つになるのではないか。

【委員】　　施設利用案内の充実について、会場の場所もさることながら利用料金を必ず入れていただくと、使う人は大変使いやすい。

【委員】　　市内の施設について、市内が広く、住んでいないとわかりにくい施設の場所もあるので、ホームページ等でももう少し工夫をしてもらえれば。

【委員】　　指導者育成について、市として各競技種目の指導者を育成するのは難しいのではないかと思う。おそらくそれぞれの競技団体で指導者、公認審判員の育成、登録等を行っている。市で行うとしても技術的な指導者というよりは全体的に関わる指導者、という意味合いになるのではないか。市の役割、競技団体の役割を区別して考えてやった方がよい。

【委員】　　新総合体育館での指導者育成の話もあったが、競技種目の指導者ではなく、全体的に見ることのできるレクリエーションコーディネーターや体力づくりコーディネーター的な立場の人材を置くと、安曇野市民の体力づくり、健康づくり、生きがい、心の元気づくりという観点から見てもいいと思う。競技種目での指導は体育協会等で行ってもらい、誰が来ても相談ができるような気軽な形がいいのではないか。同様に、文化活動の面からも交流学習センターにもコーディネーター的な人材があれば、生涯学習としてもいいのではないかと感じる。

【委員長】　　次に『4-2-1　成果発表の機会の創出に関するご意見』について。

【委員】　　子ども文化祭について。平成27年度から児童館では地域を超えた９館が集まりドッヂビー大会を開催しており大変好評。地域を超えて市内の子どもたちが交流する機会というのが今までなかなか無かった。今度「大児童館祭り」というものも考えている。今まで単館での事業はあったが一堂に会して異年齢の児童が関わる機会を、ということを運営側でも考えていたため、このような子ども文化祭というものも想像に近いかと思う。

【委員】　　地域の文化祭について現在５地域でやっているが、せっかく合併したので市１本でやってほしい。ただ地域差もあり難しいかなと思うところもある。成果発表の場は市１か所がいい。

【委員長】　　合併以後、ひとつにまとまっていく過渡期にあるかと思うが、各地域にはそれぞれの地域性・文化・特質があって、それを他の地域の人が知るということも非常に大事な部分。
　最後に、『4-2-2　成果を活かした地域貢献に関するご意見』について。

【委員】　　ジュニアリーダー養成講座とあるが、このジュニアリーダーというのはどういう活動をしているのか。地区の子ども会を見てもジュニアリーダーらしい人が活動していることは何も知らない。このような養成講座が今もあるのならもっと活用されればいい。また、リーダーバンクについて市のホームページが更新されていないのではないか。

【事務局】　　リーダーバンクについては、登録更新はされているがホームページの日付については再度確認したい。

【事務局】　　ジュニアリーダーについては、地域の子ども会育成会活動の一つとして、高遠の青少年センターでの宿泊キャンプなどに参加しながら、地域の中のジュニア世代のリーダーを育成していく活動を、合併前からやってきているもの。ジュニアリーダーの年齢幅は広く、成人になってからも参加する。養成講座を経て、高校、大学を出て戻ってきてからも地域の子どもたちの活動に参加できるというものを作りたいというのが理想。高校生大学生のリーダーができた時期もあったが、進学や就職に伴い抜けていったり、全市で数人のみという状況になったりして、現在は、裾野を広げるための養成講座等を開催している。育成会に働きかけ、レクリエーションの仕方の講習会や、三九郎の作り方講習会などを行うが、なかなか参加につながる風土が育っていない現状。地区活動に参加できるような体制を作っていきたい、というのがこの養成講座の趣旨。

【委員】　　多文化共生にも関係するが、最近は身近なアジア圏、また英語圏からも観光に訪れる人が増え、言葉のコミュニケーションの必要性を感じる。安曇野の自然や文化、良さを伝えられるような、観光

をからめた外国語の講座を開催し、活用していってほしい。また日常のコミュニケーション、例えば民泊を受け入れたときの場面を想定したコミュニケーションなどを学ぶ場がほしい。

【委員長】　外国人の旅行の仕方も、かつては日本の名所を訪ねていたが、いまは日本の伝統的な文化や生活を学ぼうという方向に変わってきている。安曇野市もグローバル的な生き方の中で、外国人と交流をするために、生涯学習で何をするのかというところも大事。

【委員】　安曇野市は観光通訳のボランティアはあるか。ぜひそういうところにも力を入れていただきたい。またジュニアリーダーの養成について、養成講座に参加した、ということは大人になっても無駄にはならない。目に見えてすぐに活躍の成果が表れるものではないかもしれないが、いつかは必ず役に立つはず。事業を継続していってほしい。

【委員】　リーダー養成講座を何回開催したからリーダーが育ちました、ということには絶対ならない。その人をどうやってリーダーにしていくかを真剣に考えて取り組まないとリーダーとして育たない。講座後の活用や声掛け、どのようにしていくかまで広く考えてリーダー養成していかないと、その後何も役に立たないということにもなりかねないのでその辺も検討いただきたい。

（4）その他

【委員】　市民が市の施設を使用するのにかなり使用料がかかる。当たり前のことなのか、当たり前じゃないのかはわからない。維持管理ということはあると思うが、その施設使用料をもらっただけで維持管理はできないと思う。生涯学習を進めるためにも使用料がかかるということがネックになっている。